

学ぼう



わからない簡素な平屋の建物に入ると、約20人の女子生徒が教師を囲むようにして地べたに座り、和気あいあいと授業に臨んでいた。

タヒラ・ガフルさん(19)とシドラさん(14)の姉妹も、週6日間、このセンターで読み書きや裁縫などを学んでいる。周り



パキスタン

が69%であるのに対し、女性には45%まで下がる。伝統的に女性教育に反対する風習があり、その傾向は地方に行くほど強い。ましてや障害のある女性が地方で教育を受ける機会は、著しく限られている。国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)は今年、事態の改善に向け、現地の民間



地方の女性と障害者に機会

パキスタン東部ラホール郊外の小さな村。入り組んだ路地を入った先に、「コミュニティ学習センター」があった。周りの石造りの民家と変

に溶け込むその様子からは想像が付かないが、2人とも聴覚障害があり、話すことも不自由だ。

この国では、男性の識字率

教師の黒板(中央、ラホール)を指す文字(21日、外)

活動団体(NGO)と連携して、今回訪れたような女性のための学習センターを全国50か所に開設。女性だけでなく障害者の参加も促している。

折しも今月、日本も未批准の国連・障害者権利条約に批准したばかり。同条約は、障害者と健常者が共に学ぶ教育を理念に掲げており、各セン

「一緒に楽しく学ぶことが大事な一歩」と前向きだ。

「もっと色々な事を学びたい」と、たどたどしく語るタヒラさんは目を輝かせていた。誰に障害があるのかわからないほど、生徒が皆、生き生きと学んでいるのが何よりまずばらしいと思った。(ラホールで 横堀裕也、写真も)

「地域公共政策士」の運用開始

京都府内の8大学が京都府や京都市、経済団体、NPO法人などと連携して創設した新資格「地域公共政策士」の運用が正式に始まった。高齢社会や過疎など地域の抱える問題を調査・分析し、官民をつないで新しい社会の仕組みを提言できる人材を認定する。資格を創設したのは、京都産業、京都府立、京都橘、京都文教、同志社、佛教、立命館、龍谷の8大学。資格は、各大学・大学院で所定のプログラムを履

大学ing

修した上で、実際に自治体で課題解決のための調査や分析、政策立案を実施。これらの実績を認定機関「地域公共人材開発機構」が審査して付与する。社会人でも挑戦しやすいように、異なる大学・大学院で必要な単位を積み上げることが出来る。昨年度から試行しており、早ければ今年末にもり人が認定を受ける見通し。欧州連合(EU)の資格基準を踏まえて設計されており、将来は国際的に通用するところ期

